

参考資料

課題の根拠資料

目 次

1	都市づくりの課題の整理	1
(1)	課題整理の方法	1
(2)	都市づくりの課題のまとめ	3
2	桶川市の現況整理	4
3	市民意向	5
(1)	市民アンケート	5
(2)	オープンハウス	10
(3)	第六次総合計画市民意識調査	14
4	社会経済等の状況	15
(1)	社会経済情勢	15
(2)	法制度改正	16
(3)	上位・関連計画での位置づけ	17
5	都市計画に関する施策等の達成度評価（H25 都市計画マスタープラン） ..	18
(1)	達成度評価の結果	18
(2)	達成度から見る施策の方向	19

1 都市づくりの課題の整理

(1) 課題整理の方法

桶川市の現況と、社会経済等の状況を踏まえ、これからの都市づくりにかかわる課題の整理を行いました。

◆都市計画マスタープラン

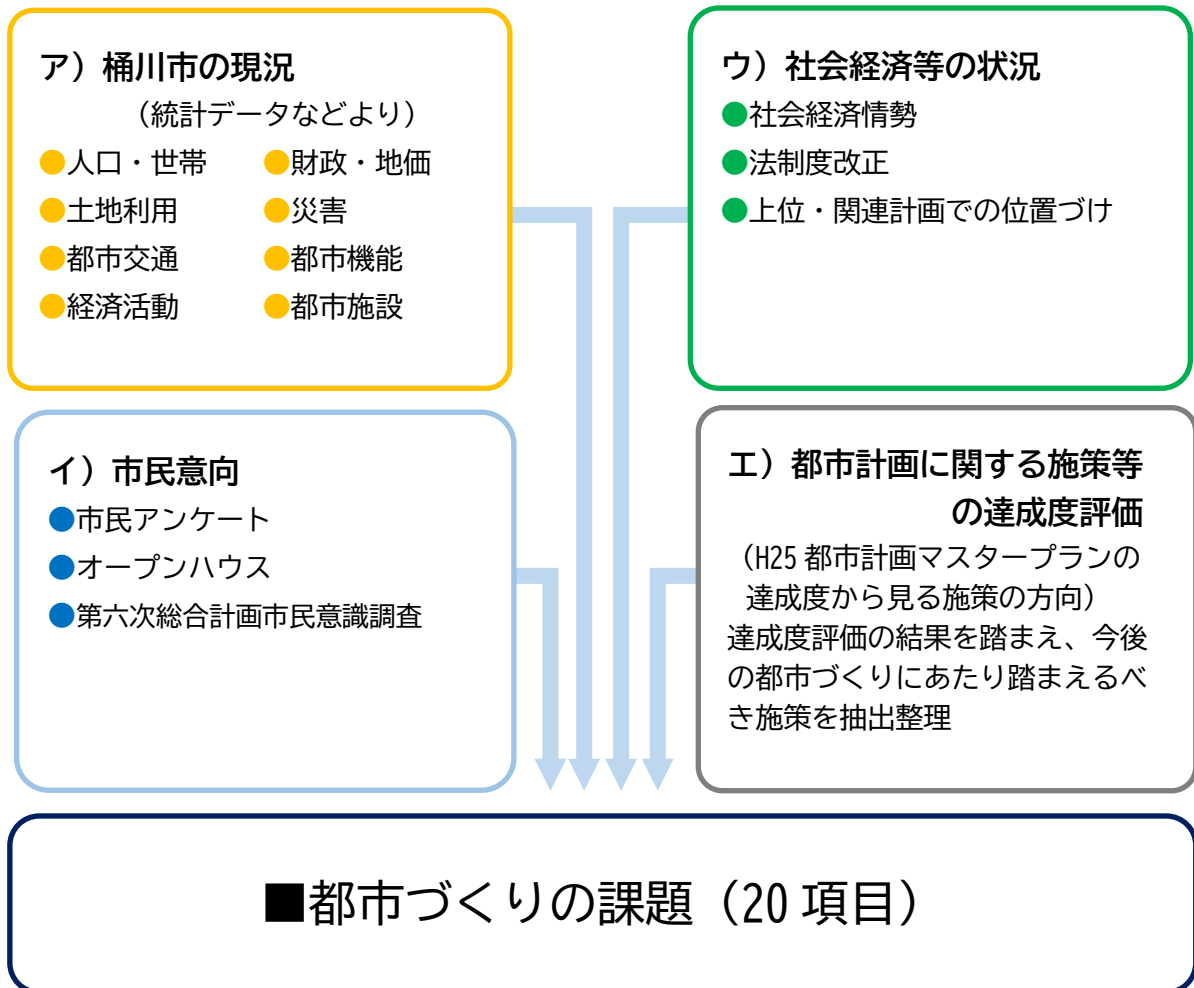


図 都市づくりの課題整理の流れ
(都市計画マスタープラン)

◆立地適正化計画

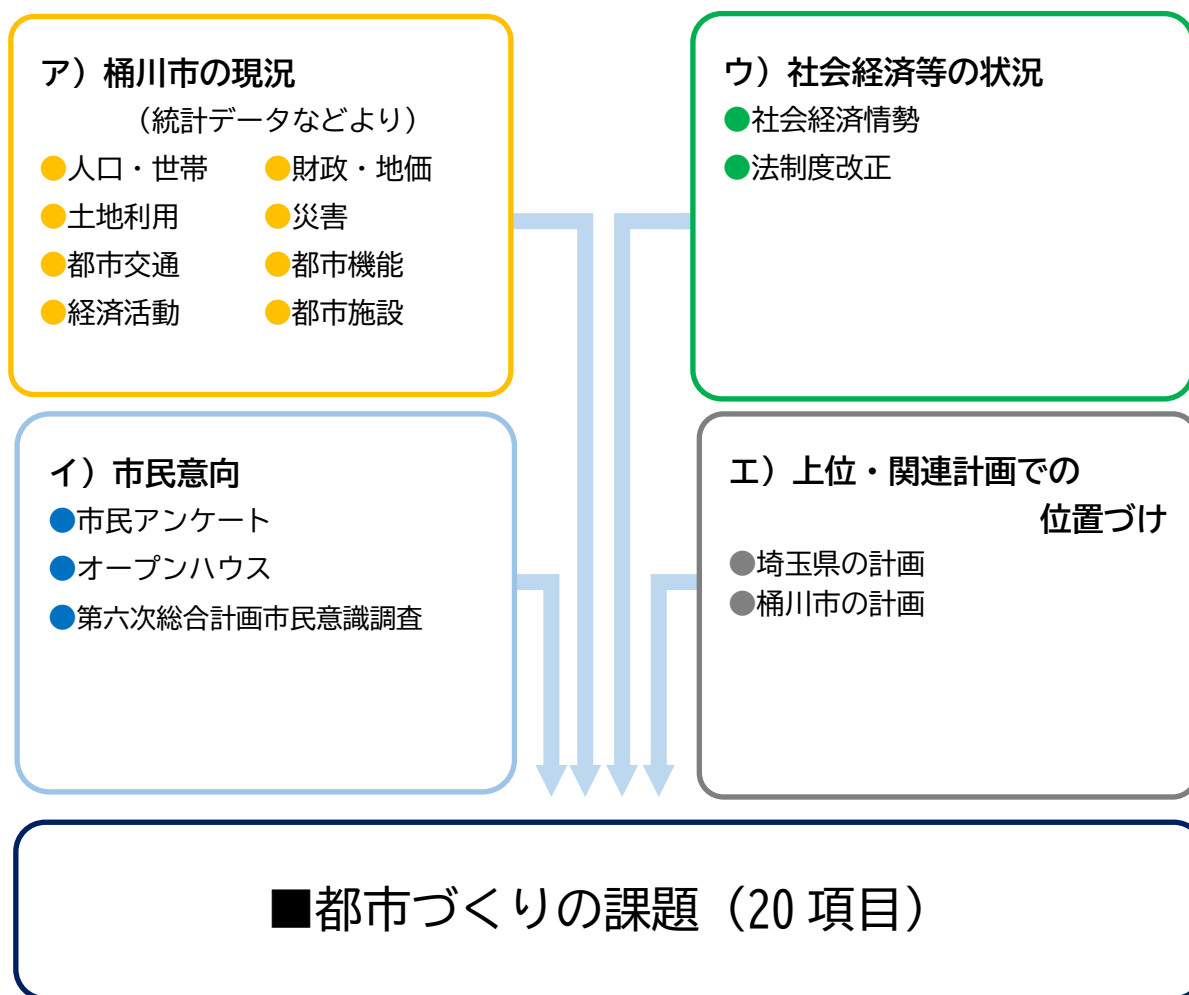


図 都市づくりの課題整理の流れ
(立地適正化計画)

(2) 都市づくりの課題のまとめ

●課題 1 定住促進による都市活力の維持・増進

現況⑤⑥、情勢Ⅰ、計画(11)、アンケ⑥「空き家」、ＯＰアイカ、取組(西 4)(東 3)(加 4)

●課題 2 子育て世代や高齢者等の住みやすい住環境づくり

現況②⑥、情勢Ⅰ、計画(3)(7)(10)、アンケ⑥「子育て」、ＯＰアイカ、取組(川 1)(西 1～3)(東 1)(加 1～2)

●課題 3 都市拠点及び地域生活拠点等における都市や生活サービス機能の維持と充実

現況②⑨、情勢Ⅰ、計画(4)(7)(15)、アンケ①②「駅周辺」、市民意識図、ＯＰアイカ、取組(川 1)(西 1～3)(東 1)(加 1～2)

●課題 4 市街地の住環境の維持・改善

現況⑤⑥、情勢Ⅱ、計画(3)、アンケ②③④⑤、ＯＰアイカ、取組(西 4)(東 3)(加 4)

●課題 5 郊外地域の生活環境の維持

現況⑪⑭⑯、情勢Ⅱ、計画(1)(3)(6)(9)(17)、市民意識図、ＯＰアイカ、取組(川 2)(加 7)

●課題 6 中心市街地の再生・活性化

現況⑩⑫⑬、情勢Ⅱ、計画(4)(7)(13)、アンケ⑥「駅周辺」、市民意識図、ＯＰアイカ、取組(西 3)(東 1)

●課題 7 市街地内未利用地の活用による定住人口の誘導

現況⑧⑩、計画(11)、アンケ⑥「空き家」、取組(西 4)(東 3)(加 4)

●課題 8 郊外型居住の維持

現況⑪⑯、情勢Ⅱ、計画(6)(9)(11)(12)(13)、取組(川 2)(加 7)

●課題 9 目指すべき都市構造に応じた適正な土地利用の誘導

- ・ 自然や周辺環境と調和した産業及び沿道利用誘導
- ・ 自然及び農業環境（空間）の継承・活用
- ・ 都市の脱炭素化に向けた都市機能の充実

現況⑮⑯⑰⑱、情勢Ⅲ、計画(2)(8)(9)、市民意識図、取組(川 5,8)(西 7)(東 4)(加 5,10)

●課題 10 産業拠点における都市機能の維持・充実

現況⑰、情勢Ⅰ、計画(8)(13)、市民意識図、取組(川 1,4)(西 5)(東 2)(加 3,6)

●課題 11 市民の移動を支える公共交通網の維持と利用促進

現況⑪⑬⑭、情勢Ⅲ、計画(4)(8)(17)、アンケ④「交通環境」、ＯＰオ

●課題 12 地域公共交通の維持とニーズに応じた適正対応

現況②⑥⑬⑭、情勢Ⅲ、計画(4)(7)(17)、アンケ④「交通環境」、ＯＰオ

●課題 13 環境にやさしい移動手段である自転車利用環境の充実

情勢Ⅲ、計画(4)(7)(17)、アンケ④「交通環境」、取組(川 9)(西 8)(東 5)(加 9)

●課題 14 地域産業の維持・育成と地域資源の有効活用

- ・ 都市近郊農業の維持・活性化のための環境づくり
- ・ 広域交通網を活かした産業基盤づくりと地域産業の振興
- ・ 便利で活気ある商業環境づくり
- ・ 中山道宿場町の歴史と親しむ環境づくり

現況⑮⑰⑱⑲、情勢Ⅰ、計画(1)(2)(8)(9)(13)、アンケ①、市民意識図、取組(川 4,7)(西 2,5,6)(東 1,2)(加 6,7)

●課題 15 持続可能な公共サービスの維持と財政運営

現況⑥⑯⑲、情勢ⅡⅢ、計画(4)(7)(10)(15)、アンケ⑥、市民意識図、ＯＰオ

●課題 16 浸水被害の軽減に向けた対応

現況⑭、情勢Ⅳ、計画(3)、アンケ③⑥、市民意識図

●課題 17 災害時における安全な避難行動への対応

現況⑮、情勢Ⅳ、計画(3)、アンケ③⑥、市民意識図

●課題 18 多様性を認めつつ支え合う地域コミュニティの維持と協働によるまちづくりの推進

現況②⑥、情勢ⅠⅡ、計画(3)(10)(13)、アンケ⑥、市民意識図、取組(川 10)(西 9)(東 6)(加 11)

●課題 19 都市施設の適正な整備促進と維持管理

現況⑩⑪⑫⑬、情勢Ⅰ、計画(15)(16)、アンケ⑥、市民意識図、ＯＰカ、取組(川 2,9)(西 4,8)(東 3,5)(加 4,9)

●課題 20 地域特性に応じた景観の創造

計画(6)(9)(13)、アンケ「周辺環境」

凡例	「現況」	「計画」	「取組」	「情勢」	「ＯＰ」	「アンケ」	「市民アンケート」
	「現況」	「計画」	「取組」	「情勢」	「ＯＰ」	「アンケ」	「市民アンケート」
	「現況」	「計画」	「取組」	「情勢」	「ＯＰ」	「アンケ」	「市民アンケート」
	「現況」	「計画」	「取組」	「情勢」	「ＯＰ」	「アンケ」	「市民アンケート」

2 桶川市の現況整理

調査・分析した桶川市の現況について、下記のとおり整理しました。

人 口 ・ 世 帯	①総人口は令和2年現在 74,748 人で近年減少傾向。 ②年少人口及び生産年齢人口は減少傾向に、老年人口は増加傾向。 ③令和2年現在の世帯数は 30,918 世帯で増加傾向。 ④市街地東部・市街地西部地域で緩やかな人口増加傾向、一方、東部田園・西部田園地域（市街化調整区域）で人口減少。 ⑤世帯構成人員が減少しており、核家族世帯や単独世帯化の傾向。 ⑥総人口は、今後減少していくことが予測され、少子高齢化が一層進むことがみこまれている。 ⑦通勤通学者は 11,985 人の流出超過。利用交通手段では、県平均と比較すると公共交通の割合はやや低く、自家用車、自転車の割合はやや高い状況。 ⑧夜間人口 100 人あたりの昼間人口の割合（昼夜間人口比率）は 84.0。
土 地 利 用	⑨桶川駅の東西に市街化区域が形成、周辺は市街化調整区域。市街化区域では、土地区画整理事業（市施行、組合施行 11 地区、市街化区域の約 4 割）が実施済。 ⑩市街化区域内の未利用地は、農地（生産緑地除く）、山林等で 30.4ha、市街化区域の 3.7%。 ⑪新築動向は市街化調整区域（農業振興地域）においても住宅を中心として継続しているが、減少傾向。 ⑫駅東口では、駅前広場をはじめとする都市基盤の整備とともに、ことぶき広場（南小学校跡地）の利活用に向けた検討が進行中。
都 市 交 通	⑬鉄道及び路線バスともに、利用者は横ばいで推移していたが、近年コロナの影響で減少。 ⑭公共交通（バス）利用の人口カバー率は、運行頻度に地域差があるものの、市街化区域で 97.5%、市街化調整区域では、一部にサービス圏域からはずれた地区が存在。
経 済 活 動	⑮農家数、農業就業人口、経営耕地面積いずれも減少傾向。 ⑯農地転用面積は年々減少する中で、住宅や業務用地への転用が中心。 ⑰工業は、事業所数が横ばい、従業員数、製造品出荷額等は緩やかな減少傾向。 ⑱小売業の事業所数は横ばい。従業者数、商品販売額は令和3年度に増加。 ⑲観光入込客数は、80～100 万人/年で推移。コロナ禍の影響で大きく減少。
財 政 ・ 地 価	⑳歳入・歳出とも緩やかな増加傾向。（コロナ禍対策年度除く） ㉑財政力指数は 0.8 程度でやや減少。 ㉒社会保障経費である扶助費が増加傾向。 ㉓地価は、工業地は上昇傾向、その他は横ばいで推移。
災 害	㉔台風や豪雨による浸水被害が江川及び赤堀川沿いに発生。 ㉕災害時の避難所の人口カバー率は、市街化区域で 97%、市域全体では 91%。
都 市 機 能	㉖商業機能は、都市拠点である桶川駅周辺や東西市街地の地域生活拠点のほか、国道 17 号や県道川越栗橋線などの幹線道路沿道に立地。 ㉗工業機能は、桶川東部工業団地や上日出谷原新田地区に集積。流通系施設が圏央道 IC 周辺の幹線道路沿道に立地。 ㉘居住機能は、桶川駅の東西市街化区域に土地区画整理事業等による住宅地が形成。 ㉙商業、医療、子育て、地域福祉、金融、教育・文化施設、避難所は、市街化区域で高いカバー率で、利便性や安全性は優位な状況。
都 市 施 設	㉚都市計画道路の整備率は、75.3%で県や全国の値を上回り高い状況。 ㉛都市公園は、総合公園 1 箇所、近隣公園 4 箇所、街区公園 18 箇所、特殊公園 1 箇所、都市緑地 3 箇所。 ㉜市民 1 人あたりの公園・緑地面積は 2.95 m²/人であり、県や全国値を下回っている。 ㉝公共下水道の整備率は、93.2%。

注：記載内容は、「計画書」における説明コメント以外の記述を含んでいます。

3 市民意向

(1) 市民アンケート

本市における将来のまちづくりの指針となる「桶川市都市計画マスタープラン」及び「桶川市立地適正化計画」策定の参考とすることを目的としてアンケートを実施しました。

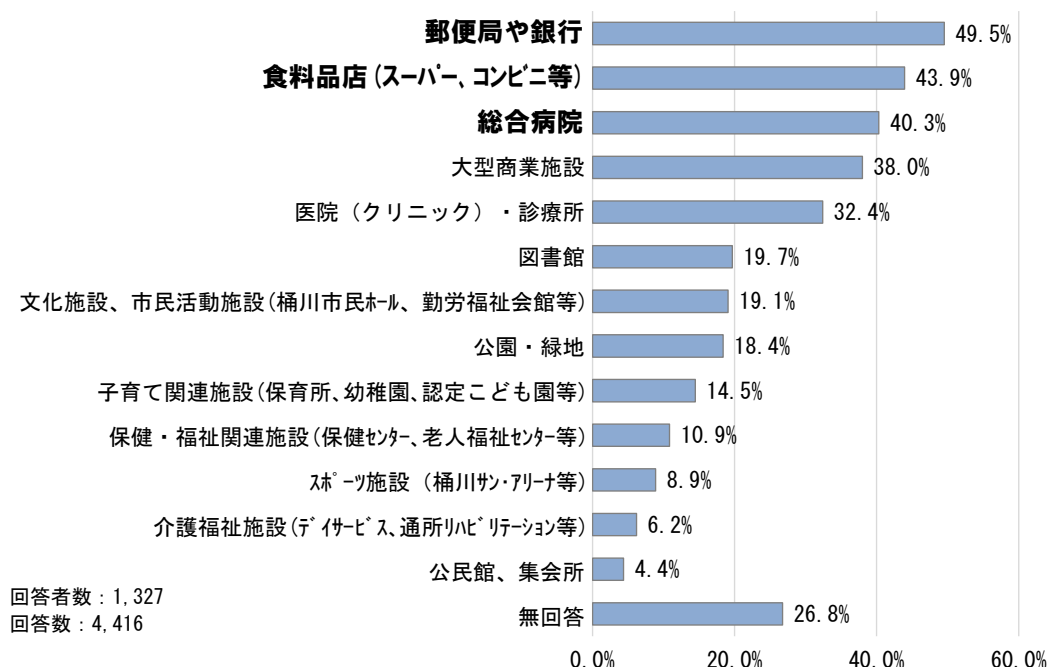
① 市民アンケートの概要

対 象 者	令和5年8月31日時点の住民基本台帳より、無作為に抽出した満18歳以上の市民3,000人
調 査 方 法	郵送による配布、回収（無記名）
実 施 時 期	令和5年9月13日から令和5年10月31日まで
回 収 結 果	1,327件（回収率44.2%）

② 市民アンケート結果（抜粋）

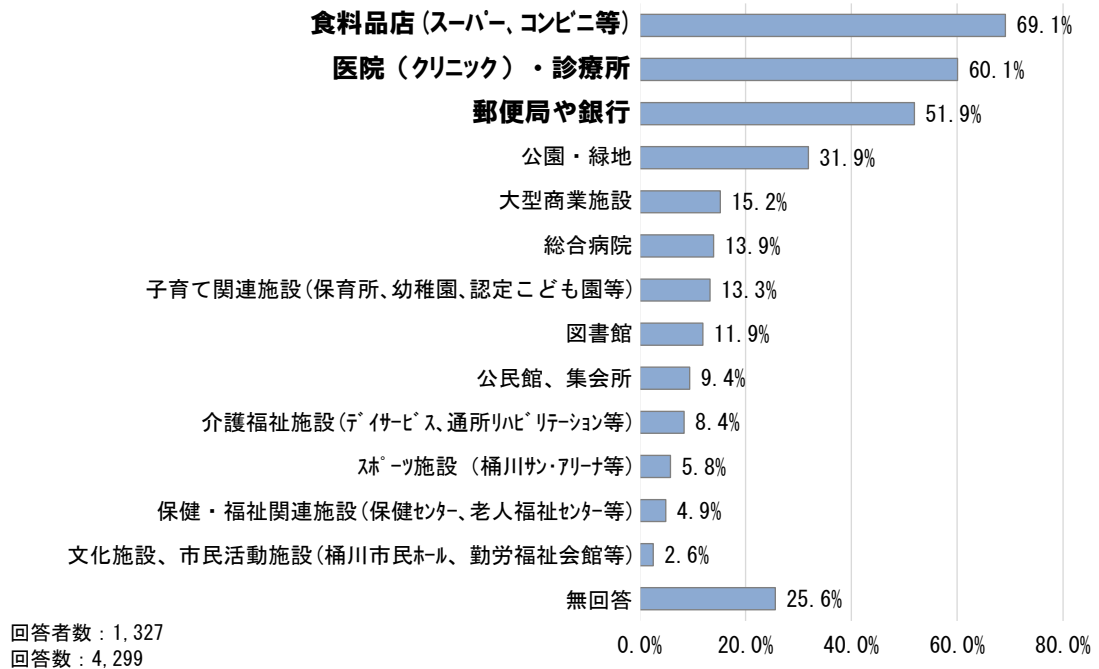
①市の中心市街地や拠点となる地区に欠かせない施設

「郵便局や銀行」が49.5%と最も高く、次いで「食料品店（スーパー、コンビニ等）」43.9%、「総合病院」40.3%となっています。



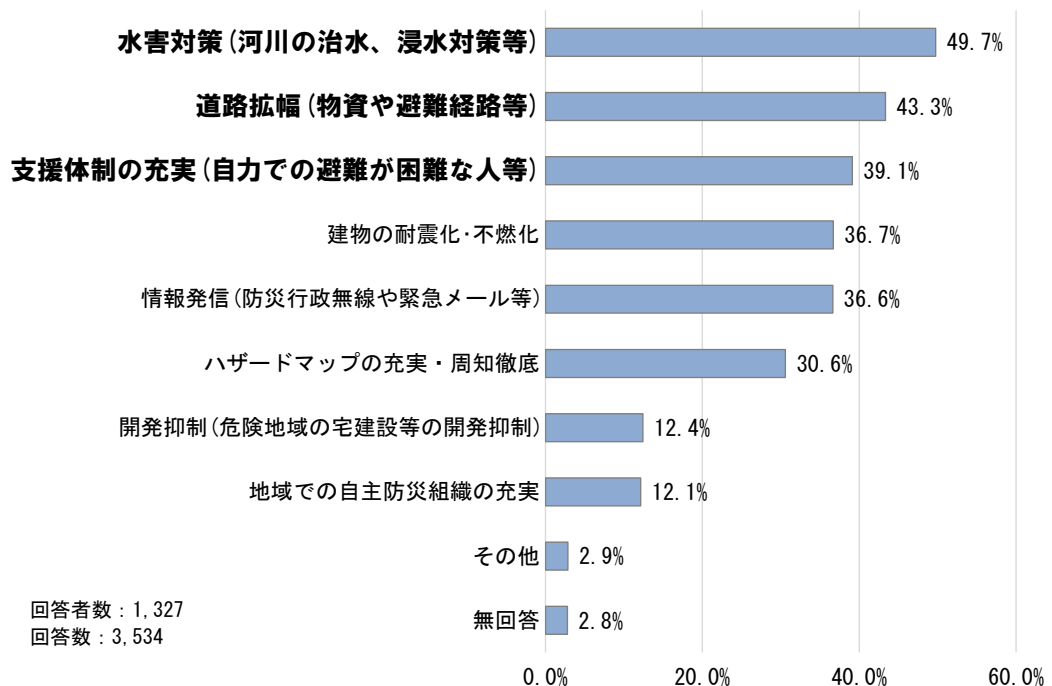
②自宅周辺（おおよそ徒歩で移動できる範囲）にかかせない施設

「食料品店（スーパー、コンビニ等）」が 69.1%と最も高く、次いで「医院（クリニック）・診療所」 60.1%、「郵便局や銀行」 51.9%となっています。



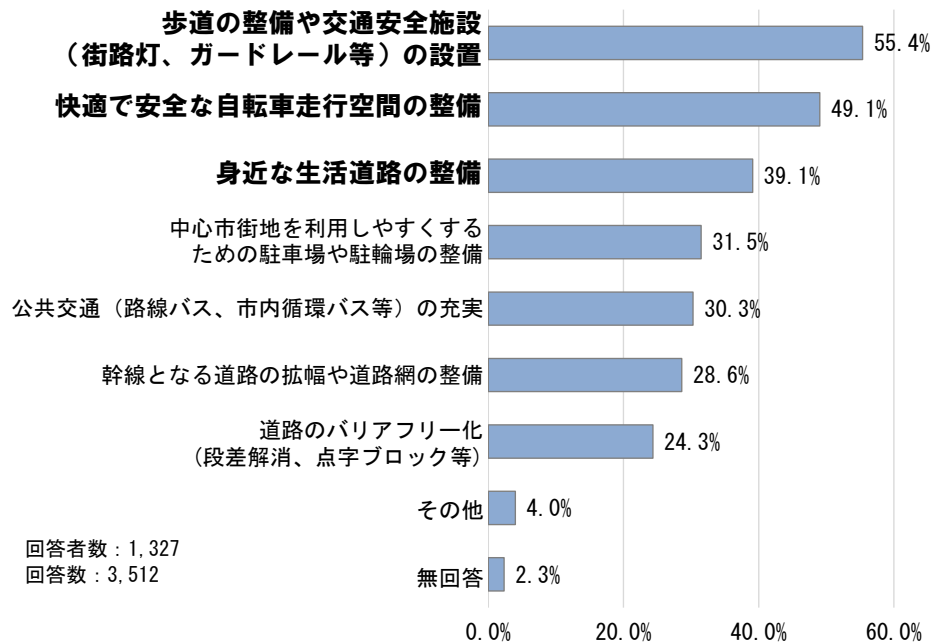
③近年、頻発・激甚化する自然災害に対する防災の観点からのまちづくりの取り組みとして特に重要な取組

「水害対策（河川の治水、浸水対策などの水害対策）」が 49.7%と最も高く、次いで「道路拡幅（物資や避難経路の整備・機能強化）」 43.3%、「支援体制の充実（自力での避難が困難な人への支援体制の充実）」 39.1%となっています。



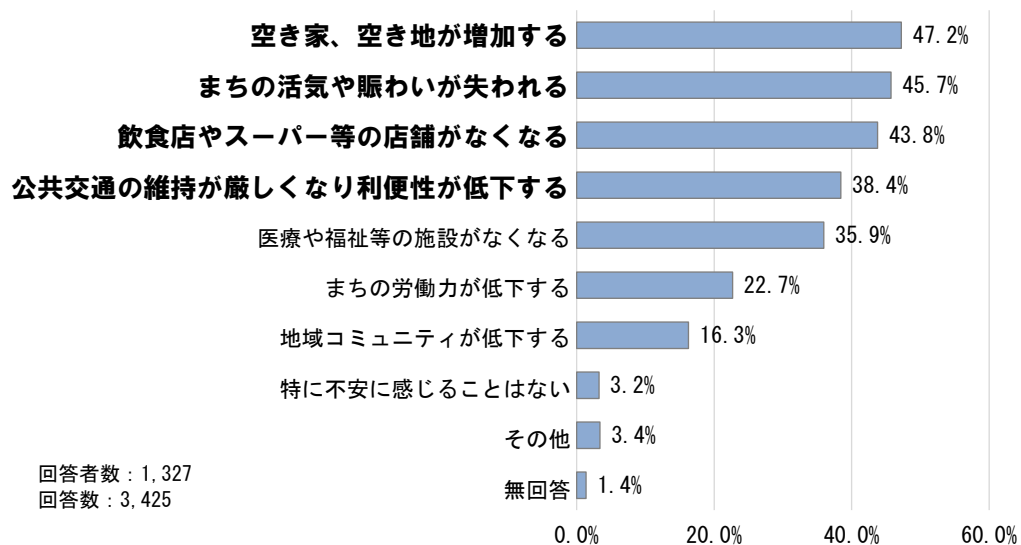
④交通・道路整備に対して重視すべき取り組み

「歩道の整備や交通安全施設（街路灯、ガードレール等）の設置」が55.4%と最も高く、次いで「快適で安全な自転車走行空間の整備」49.1%、「身近な生活道路の整備」39.1%となっています。



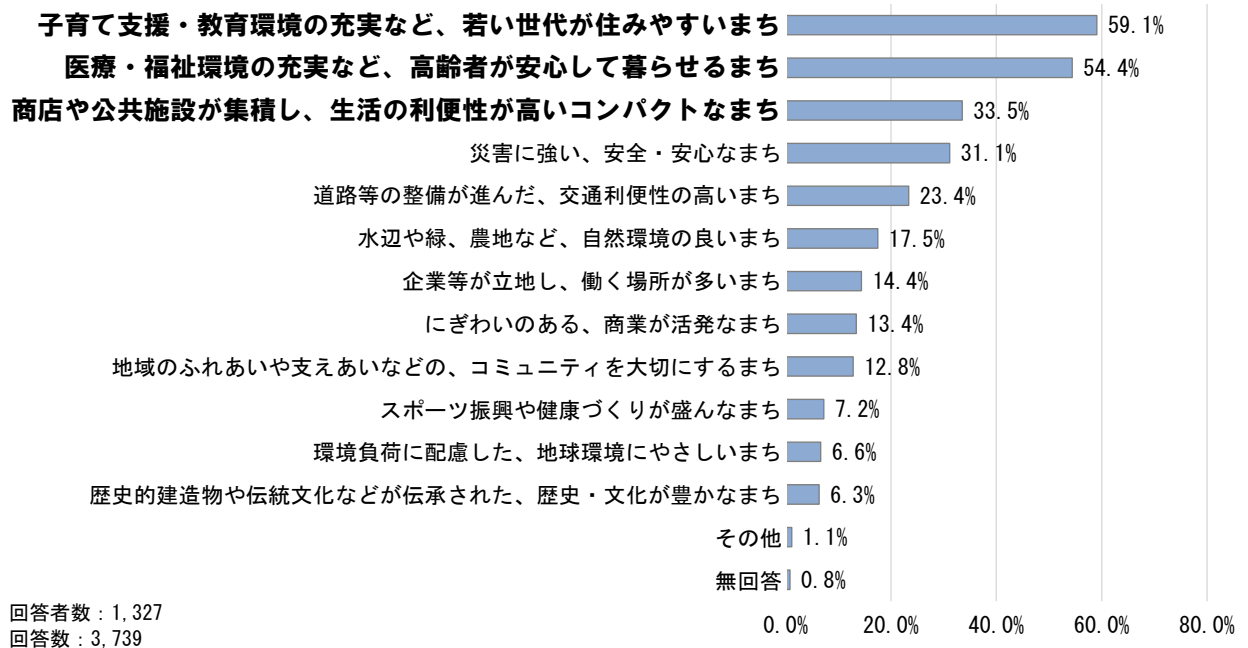
⑤人口減少や少子高齢化が進むことへの不安要素

「空き家、空き地が増加する」が47.2%と最も高く、次いで「まちの活気や賑わいが失われる」45.7%、「飲食店やスーパー等の店舗がなくなる」43.8%となっています。



⑥人口減少・高齢化社会のなかで本市が目指すべきまちの将来像

「子育て支援・教育環境の充実など、若い世代が住みやすいまち」が59.1%と最も高く、次いで「医療・福祉環境の充実など、高齢者が安心して暮らせるまち」54.4%、「商店や公共施設が集積し、生活の利便性が高いコンパクトなまち」33.5%、「災害に強い、安全・安心なまち」31.1%となっています。



⑦自由意見（主な意見）

自由意見では、道路整備や駅東口整備、公園整備についての意見が特に多く見られ、そのほかにも、施設・設備関連では商業施設・病院等の不足について、道路・交通面では、道路拡幅、街路灯整備、バスの利便性の向上、自転車走行環境の整備等についての意見が多く見られました。

また、高齢者に優しく、子育てしやすいまちづくりを希望する意見や周辺市と比較する意見も多くみられました。

区 分	主な意見	件数
交通環境	歩行環境の改善、ニーズに応じた公共交通対策、夜でも安心して歩ける環境、駅等のバリアフリー対策	113
駅東口	駅周辺交通環境の改善、整備促進、都市機能強化、楽しめる場所づくり	99
駅周辺	駅周辺（商業）機能の充実、交通対策、魅力づくり、医療機能の充実、サービス施設の充実	75
子育て	子育てしやすいまちづくり、子供の遊べる公園充実、子供がスポーツできる環境	59
まちづくり	市民農園等の土地活用、働きざかりや若い世代が住み続けたいとなる施策、交流施設の整備	54
空き家	空き家・空き地の対策推進	42
高齢者	高齢者世代が住みやすい対策、高齢者対応のイベントや楽しめる公園整備	23
縮小社会	少子高齢化対策、生活弱者等人にやさしいまち、子供のいない世帯への対応	19
産 業	インター周辺等産業・雇用基盤強化、道の駅の適正整備	17
周辺環境	身近な商業機能の充実、身近な自然環境の保全、身近な公園整備	10
観 光	宿場町中山道まちなみ改善、歴史・観光資源の活用	9
その他	町内会廃止、市民プール設置	4

(2) オープンハウス

「桶川市都市計画マスタープラン」及び「桶川市立地適正化計画」の策定にあたり、桶川市の現状や計画の概要を紹介するオープンハウス※及びパネル展を開催することにより、これからの都市づくりについて知ってもらい、考えてもらう機会とします。

また、市民の方々との対話を通じて生の声を聞き、計画策定に活用することを目的として実施しました。

※オープンハウス：パネル展示や対面での説明などによる情報提供と、アンケートや聞き取りによる意見聴取を行う会

① オープンハウスの実施概要

開催日・場所・参加者数	■オープンハウス (参加者数) 令和6年1月17日(水) ベニバナウォーク桶川 50名 令和6年1月18日(木) 市役所 27名 令和6年1月24日(水) 坂田コミュニティセンター 32名 令和6年1月26日(金) おけがわマイン 41名 計 150名
	■パネル展示及びアンケート 令和6年1月19日(金)～21日(日) 川田谷生涯学習センター 令和6年1月27日(土)～30日(火) 加納公民館
実施内容	■パネル説明 桶川市の現状、都市計画マスタープラン、立地適正化計画などについてパネルで説明
	■シールパネルによるアンケート 「より暮らしやすい環境」について、シールパネルを用いてアンケートを実施(複数回答、シール3つまで)
	■対話による意見聴取 来場者を対象に対話を通じて自由意見の聞き取りを実施

開催状況



ベニバナウォーク桶川



市役所



坂田コミュニティセンター



おけがわマイン

シールパネルによるアンケート結果

② オープンハウスの結果

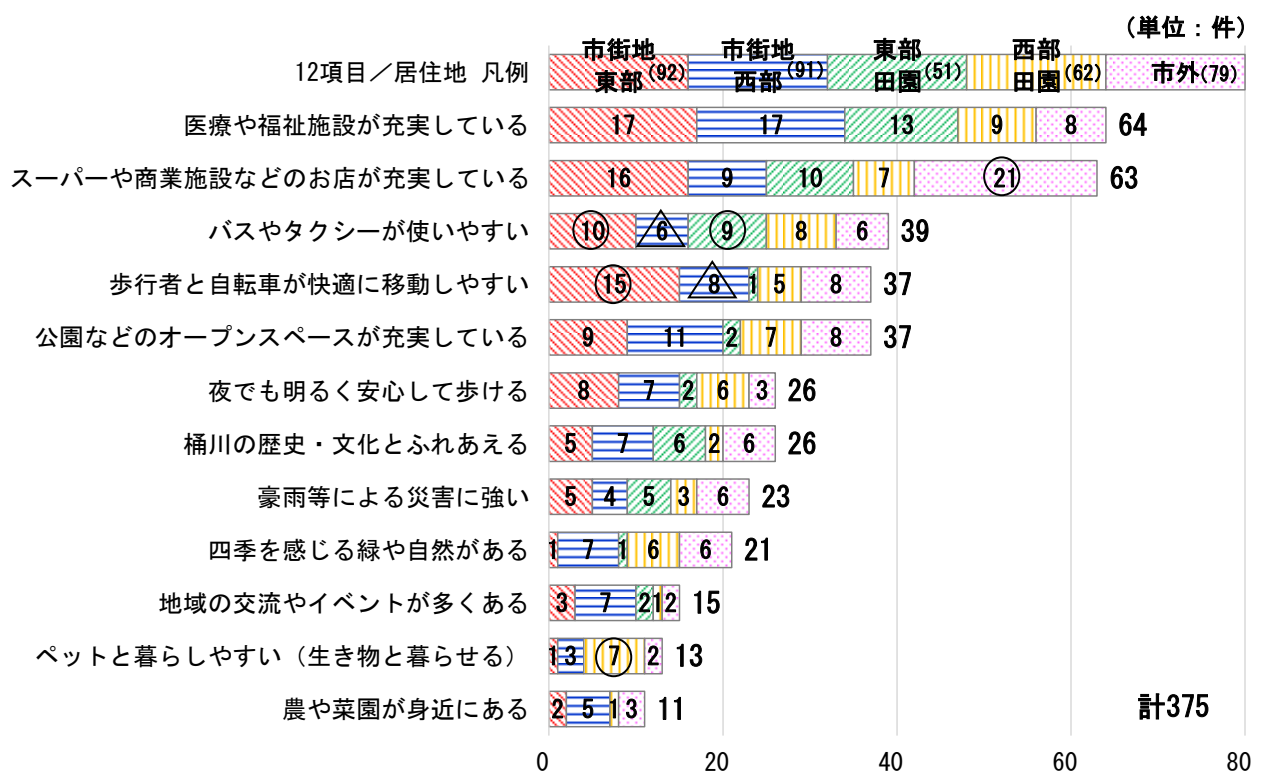
■ シールパネルによるアンケート結果

桶川市の現状を踏まえ、「より暮らしやすい（暮らし続けられる）環境について、こうなるといいな」ということについて、シールパネルによるアンケートを実施しました。

全体をみると「医療や福祉施設が充実している(64/375 回答)」、「スーパーや商業施設などのお店が充実している(63/375 回答)」がそれぞれ全体の約17%を占めており、生活利便施設の充実が求められていることが伺えます。

アンケート回答者の居住地別にみると、市街地東部地域では「歩行者と自転車が快適に移動しやすい」や「バスやタクシーが使いやすい」などが多い一方で、市街地西部地域では交通・歩行環境に関する項目が少ない傾向にあります。

また、東部田園地域では「バスやタクシーが使いやすい」、地域では「ペットと暮らしやすい」、市外では「スーパーや商業施設などのお店が充実している」がそれぞれ特に多い状況となっており、全体の傾向に合わせながらも、地域毎に特徴があることが伺えます。



〔主な意見のまとめ〕

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| ア 病院・医療施設の充実 | エ 公園の利用環境の改善・充実 |
| イ スーパーや商業施設の充実 | オ バス・循環バスの本数やルート、案内情報の充実 |
| ウ 銀行撤退による利便性の低下 | カ 駅東口の整備促進 |

■ 対話による意見聴取：自由意見

オープンハウスの来場者を対象に、展示パネルの説明とともに対話を通じて自由意見の聞き取りを実施しました。

自由意見では、バスの本数やルート、商業施設・病院・公園等の充実、駅東口の整備等について、多くのご意見を頂きました。主な意見を集約・整理・分類すると次のとおりです。

◇公共交通について

「バス路線の増便」、「ルートの改善・周知」、「高齢者が利用しやすい取り組み」などについての意見が出ており、公共交通の利便性の向上や案内情報の充実が求められていることが伺えます。

【来場者の主な意見】

- ・バスの本数・ルートが少ない。
 - ・バスがどこを走っているか知らない。
 - ・今後は積極的に使いたい。
 - ・ベニバナウォークまでのバスに乗りたい。
 - ・タクシー、バスの交通の値段は、利益を考慮して設定すべき。
 - ・高齢者にバス無料パス等を配布してほしい。
 - ・赤字でもバスは継続してほしい。
- など

◇スーパーや商業施設について

「商業施設や飲食店の誘致」や「歩いて行ける範囲の施設の充実」などについての意見が出ており、歩いて暮らせるまちづくりの推進や地域経済の活性化が求められていることが伺えます。

【来場者の主な意見】

- ・歩いて行ける範囲に買い物できる商業施設が少ない。
 - ・大きめのスーパーが少ない。
 - ・北本や上尾に比べて商業施設が少なく誘致してほしい。
 - ・飲食店が少ない。
- など

◇病院・医療施設について

「病院、医療体制の不足」や「産婦人科の不足による子育ての不安」などについての意見が出ており、医療体制の充実や子育て環境の整備が求められていることが伺えます。

【来場者の主な意見】

- ・特に産婦人科の不足による子育ての不安。
 - ・総合病院、整形外科など全体的に医療施設・医療体制を充実してほしい。
 - ・病院の位置は誰をターゲットにするかで変わる。
 - ・南小跡地へ病院を誘致してほしい。
- など

◇駅周辺について

「駅東口の早期整備」や「南小跡地の有効活用」などについての意見が出ており、駅周辺の環境整備や中心市街地の活性化が求められていることが伺えます。

【来場者の主な意見】

- ・10年以上も整備しており、早くどうにかしてほしい。
- ・東口の駅前がさみしく、きれいにしてほしい。
- ・緑化や憩いの場を整備してほしい。
- ・駅東口にある南小跡地を整備してほしい。（公園、病院等） など

◇公園について

「利用環境の改善」や「遊具の充実」などについての意見が出ており、子どもや高齢者など多様な世代が憩うことのできる公園施設の充実が求められていることが伺えます。

【来場者の主な意見】

- ・雨でもグランドゴルフができる屋根付きの公園を整備してほしい。
- ・下日出谷中央公園の水洗トイレを整備してほしい。
- ・遊具を充実させてほしい。
- ・城山公園でペットと散歩できるようにしてもらいたい。
- ・上日出谷南にある公園が暗い。
- ・植木がとがっており、子供に危ない。
- ・公園の椅子が汚い。
- ・公園、緑、自然のスペースを活用したまちづくりをしてほしい。 など

◇銀行について

「銀行が撤退したことによる利便性の低下」や「ATMの不足」などについての意見が出ており、生活に便利で住みやすいまちづくりが求められていることが伺えます。

【来場者の主な意見】

- ・銀行の撤退により、桶川市に銀行がなくなり不便。
- ・地元の信用金庫は残してほしい。
- ・ATMが近くにない。 など

◇歩行者・自転車について

「歩道の整備」や「道路の拡幅」などについての意見が出ており、自動車、自転車、歩行者が安全で快適に通れる環境整備が求められていることが伺えます。

【来場者の主な意見】

- ・道が狭く自転車の通行が困難。
- ・歩道を整備してほしい。
- ・横断歩道が少ない。
- ・旧市街地は駅周辺に比べ歩道が少ないので、身近な道路が安全になるよう整備してほしい。 など

③ 第六次総合計画市民意識調査

本計画の策定に伴って実施した「市民アンケート」のほか、第六次総合計画の策定に向けた市民意識調査での市民意見は下記のとおりです。

- | | |
|----|---|
| 1 | 人口減少社会に対しては、「地域を支える担い手の不足」「社会保障費の負担増加」「空き家・空き地の増加」を懸念 |
| 2 | 今後の土地利用の方向性では、「商業地を増やす」「住宅地の質を高める」ことへの要望が高い |
| 3 | 市街化調整区域では、生産機能の維持・活性化とともにふれあいの場としての活用の要望が高い |
| 4 | 工業地のあり方では、「住宅との混在解消へ向けた土地利用の整序や農業環境との調和」への要望が高い |
| 5 | 商業地のあり方では、「桶川駅周辺の商業施設の充実」「住宅地の近くに近隣型商業施設の分散立地を図る」への要望が高い |
| 6 | 観光振興では、「中山道桶川宿のまち並み・景観づくりの推進」との回答が多い |
| 7 | 子育て支援の取り組みとして、「こども医療費助成制度など経済的支援の充実」「多様な保育サービスの充実」への要望が高い |
| 8 | 市の将来像では、「医療機関や保健サービスが充実しているまち」「子どもが育つ環境や教育環境が良いまち」に次いで、「防災や防犯などにすぐれ、安全で安心して暮らせるまち」への要望が高い |
| 9 | 力を入れて欲しいまちづくりでは、「桶川駅周辺の中心市街地の活性化」への要望が高い |
| 10 | 中心市街地への充実すべき機能では、「買い物のできる商業機能」「飲食のできる場」への要望が高い |
| 11 | 整備を望む施設では、「病院」「安心して通行できる道路」「自転車道路」「身近な公園」の順で要望が高い |

4 社会経済等の状況

平成 25 年の都市計画マスタープラン策定以降の社会経済情勢の変化や潮流より、これからの都市づくりに留意すべき事項を整理します。

(1) 社会経済情勢（第六次桶川市総合計画（時代の潮流）より抜粋）

I 縮小する社会

- ・ 少子高齢化による人口減少は、労働人口の減少や国内市場の縮小、社会保障経費の増大、都市の空洞化、地域社会における担い手不足など、多くの課題を浮き彫りにしています。
- ・ 実効性のある少子化対策をはじめ、コンパクト・プラス・ネットワークの形成など、厳しさを増す行財政運営の中、縮小する社会を見据えた持続可能なまちづくりを着実に進めることが求められています。

II 価値観の多様化

- ・ 我が国は、世界有数の長寿国となり、人生 100 年時代を迎える中、個人の価値観や生活スタイルは多様化し、一人ひとりの個性や価値観を互いに尊重する、誰もが自分らしく幸せに暮らし続けることを目指す社会へと変化しています。
- ・ 限られた行政資源の中、多様化、複雑化する行政需要への対応が求められています。

III 地球温暖化（SDGs への対応）

- ・ 社会経済活動に伴う温室効果ガスの排出量の増加や、森林伐採などによる自然環境の破壊により、地球温暖化や生物多様性の喪失など、世界各地において、様々な環境問題が顕在化しています。
- ・ 地球環境問題への関心は、年々高まっており、多様な主体が連携・協働し、環境意識の醸成をはじめ、脱炭素や循環型社会の形成、自然環境の保全・再生などに継続して、取り組むことが求められています。

IV 激甚化・頻発化する自然災害

- ・ 近年、大規模自然災害が発生しており、各地で甚大な被害を及ぼす中で、首都直下地震や南海トラフ地震といった自然災害に備える為、国は強靱な国土の形成に向け、地方自治体と共に取り組むこととしています。
- ・ 災害から人命や財産を保護し、建物の崩壊やインフラの機能停止など、様々な被害を最小化し、その被害を迅速に回復することができる、強靱性を備えたまちづくりの推進や、地域の特性に応じた総合的な地域防災体制の構築が求められています。

V ポスト・コロナ時代

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、働き方や生活スタイルなどが変化し、テレワークやキャッシュレス決済など非接触型のサービスがデジタル化とともに急速に普及しました。
- ・ 社会基盤となるマイナンバーカードと AI や IOT などデジタル技術を活用した社会課題の解決など、ポスト・コロナ時代を見据え、新たなニーズや環境変化に適應できる持続可能な社会の形成が求められています。

(2) 法制度改正

① まちづくり3法見直し（平成 18 年）

- ・人口減少社会の到来や少子高齢化の加速化に対応し、インフラ維持コスト削減や地域コミュニティの維持、商業・歴史文化・教育・福祉など様々な都市機能の市街地集約（まちのコンパクト化）を図り、持続可能な都市づくりへの対応を図るため、まちづくりに関わる3法の改正を行いました。

- 都市計画法（改正）：まちづくりの観点から大型店舗の立地規制などを可能とする土地利用規制を促進
- 大規模小売店舗立地法：大型店舗の出店に際して周辺的生活環境の保持の観点から新たな調整の仕組みを定めた
- 中心市街地活性化法：中心市街地の空洞化を食い止め活性化活動を支援

② 都市の低炭素化の促進に関する法律制定（平成 24 年）

- ・社会経済活動その他の活動に伴って発生するCO₂の相当部分が都市において発生していることを踏まえ、都市の低炭素化の促進に関する基本方針を策定するとともに、市町村による低炭素まちづくり計画の作成や特別の措置、低炭素建築物の普及の促進のための措置を講じることにより、都市の低炭素化の促進を図ることを目的として制定されました。

② 都市再生特別措置法改正（立地適正化計画制度の創設）（平成 26 年）

- ・頻発・激甚化する自然災害に対応するとともに、まちなかにおけるにぎわいを創出するため、安全で魅力的なまちづくりの推進を図るため、「都市再生特別措置法等の一部を改正する法律」が制定されました。
- ・人口の急激な減少と高齢化を背景として、高齢者や子育て世代にとって、安心できる健康で快適な生活環境を実現すること、財政面及び経済面において持続可能な都市経営を可能とすることが大きな課題となるなかで、医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直し、『コンパクト・プラス・ネットワーク』の考えで進めていくことが重要であるとして、都市再生特別措置法が改正され、行政と住民や民間事業者が一体となったコンパクトなまちづくりを促進するため、立地適正化計画制度が創設されました。

(3) 上位・関連計画での位置づけ

① 埼玉県計画

平成 25 年の都市計画マスタープラン策定以降、都市計画に関わる以下の計画の策定や見直しが行われました。

- 埼玉県 5 か年計画（令和 4 年 3 月）
- まちづくり埼玉プラン（平成 30 年 3 月）
- 埼玉版スーパー・シティプロジェクト（令和 3 年 3 月）
- 埼玉の持続的成長を支える産業基盤づくり取組方針（令和 4 年 4 月）
- 桶川都市計画（桶川市）都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）
（令和 5 年 10 月）

表 埼玉県計画における位置づけ

埼玉県 計画	(1)都市と田園の共存	(5 か年計画（埼玉県）)
	(2)産業立地と地域活力の向上	(")
	(3)安心な住環境の確保	(")
	(4)コンパクトなまちの実現	(都市計画区域マスタープラン（埼玉県）)
	(5)地域の個性ある発展	(")
	(6)都市と自然・田園との共生	(")

② 桶川市計画

桶川市では、都市計画に関わる以下の計画の策定や見直しが行われました。

- 桶川市第六次総合計画（令和 5 年 3 月）
- 桶川市デジタル田園都市構想総合戦略（第 2 期桶川市まち・ひと・しごと創生総合戦略）（令和 6 年 1 月）
- 桶川市都市計画マスタープラン改訂版（平成 25 年 3 月）
- 桶川市緑のまちづくり計画改訂版（平成 25 年 3 月）
- 桶川市公共施設配置基本計画（平成 27 年 3 月）
- 桶川市公共施設等総合管理計画（改定版）（令和 4 年 3 月）
- 桶川市環境基本計画（平成 24 年 3 月改定）

表 桶川市計画における位置づけ

桶川市 計画	(7)歩いて暮らせるまちづくり	(総合計画・土地利用方針)
	(8)広域交通網をいかすまちづくり	(")
	(9)自然と暮らしが調和するまちづくり	(")
	(10)子育て環境の充実	(第 2 期総合戦略)
	(11)移住・定住の促進	(")
	(12)ふるさと回帰	(")
	(13)桶川らしさを生み出す都市づくり	(H25 都市計画マスタープラン)
	(14)持続的に進めるまちづくり	(")
	(15)既存施設の有効活用による財政負担の軽減	(公共施設等総合管理計画)
	(16)計画的で効率的な質の高い維持管理の推進	(")
	(17)人と環境が共生するまち	(環境基本計画)

5 都市計画に関する施策等の達成度評価（H25 都市計画マスタープラン）

（１）達成度評価の結果

「桶川市都市計画マスタープラン」の改定及び「桶川市立地適正化計画」の策定にあたり、両計画に共通する都市計画に関わる施策の進捗状況と今後の方向性を明らかにすることを目的として実施した、平成 25 年策定の都市計画マスタープランの達成度評価を以下に整理します。

① 達成度評価結果

達成度評価の結果は、124 項目の中に複数課での評価が含まれているため、全 195 回答を集計しています。なお、「D:未着手（2.1%（4 回答））」と評価されたものは、構想道路の整備や都市下水路を活かした緑道整備に関する施策となっています。

② 施策の方向性

施策の方向性の結果については、全 195 回答中、「A A:達成し完了しているため、次期計画には記載しない。」が 10.3%（20 回答）となっています。

施策を「継続する」とした回答として、「A:達成し完了しているが、更なる施策の推進を図るので、次期計画にも記載する。」、「B:施策の実現に向け引き続き取り組むので、次期計画にも記載する。」、「C:社会情勢や市民ニーズを踏まえて内容を再検討の上推進するので、次期計画にも記載する。」の 3 項目を合わせて 84.7%となっています。

表 達成度評価

評価		評価数	割合
A	達成	33	16.9%
B	順調に進んでいる	89	45.6%
C	計画通り進んでいない	69	35.4%
D	未着手	4	2.1%
合計		195	100.0%

表 施策の方向性

評価		評価数	割合
A A	達成し完了しているため、次期計画には記載しない。	20	10.3%
A	達成し完了しているが、更なる施策の推進を図るので、次期計画にも記載する。	12	6.1%
B	施策の実現に向け引き続き取り組むので、次期計画にも記載する。	77	39.5%
C	社会情勢や市民ニーズを踏まえて内容を再検討の上推進するので、次期計画にも記載する。（内容を再検討して修正案を記入）	76	39.0%
D	第六次総合計画で事業廃止している、又は現地の状況等により達成できないことが客観的に明らかであるので、次期計画には記載しない。	10	5.1%
合計		195	100.0%

(2) 達成度から見る施策の方向

平成 25 年策定の都市計画マスタープランの施策の達成度を評価した結果を踏まえ、今後の都市づくりにあたり踏まえるべき施策の方向性として、「施策を更に推進する(A)」、「継続する(B)」、「内容を再検討して進める(C)」とされた施策を整理しました。

表 達成度評価から見る地域別施策の方向

地域	評価を踏まえた取り組み方向
川田谷地域	1. 観光まちづくり拠点と連携した地域コミュニティ拠点の形成 2. 郊外型の居住環境整備 3. 個性ある景観の継承 4. 桶川北本 IC 周辺における産業誘導 5. 上尾道路における適正な産業誘導と沿道環境形成 6. 平和祈念館周辺の観光まちづくりの推進 7. 都市近郊農業の維持・活性化 8. 自然林や河川敷空間の保全・継承・活用 9. 幹線道路の環境対策 10. 官民協働によるまちづくりの推進
桶川西地域	1. 地域生活拠点整備（大型商業施設周辺） 2. コミュニティ拠点整備（旧分庁舎敷地周辺） 3. 都市拠点の整備（駅周辺地区） 4. 土地区画整理事業地外の住環境の保全・整備 5. 既存工業地域の環境改善 6. 都市近郊農業の維持・活性化 7. 自然林や河川敷空間の保全・継承・活用 8. 幹線道路の環境対策 9. 官民協働によるまちづくりの推進
桶川東地域	1. 都市拠点の整備 2. 中山道宿場町観光まちづくり拠点の形成 3. 土地区画整理事業地外の住環境の保全・整備 4. 国道 17 号沿道の環境誘導 5. 幹線道路の環境対策 6. 官民協働によるまちづくりの推進
加納地域	1. 地域生活拠点の整備（坂田コミセン周辺） 2. コミュニティ拠点の整備（加納公民館周辺） 3. 観光まちづくり拠点の形成（べに花ふるさと館周辺） 4. 土地区画整理事業地外の住環境の保全・整備 5. 国道 17 号沿道の環境誘導 6. 桶川加納 IC 周辺の産業誘導 7. 農業環境及び自然環境の維持・保全 8. 備前堤周辺の環境整備 9. 幹線道路の環境対策 10. 地域資源回遊ルートの整備 11. 官民協働によるまちづくりの推進